

映画紹介



2025 年スイス・ドイツ合作 92 分
ベトラ・フォルベ監督・脚本作品
3/6 より日本全国公開中
<https://nursecall-movie.com/>

スイスの州立病院を舞台にしたヒューマンドラマ。主人公は病棟看護師のフロリア。彼女のとある遅番の日の勤務をつぶさに描く。

細かい作業が多い病棟業務は、たびたび院内電話とナースコールで中断され続ける。病棟は満床だが、それでも受け入れ要請の連絡が入る。この日は休みがいて看護師二人(!)と看護学生(やさしく指導しないと泣く)で病棟を回す。患者たちは病状、家族、本人の意思、どれをとっても

多様すぎる(出身国も文化背景もさまざまであるようだ)。ベテランであり、冷静に業務をこなすフロリアだが、感情を揺り動かされる場面がしばしばある。フロリア自身の家族との関係も描かれる。医療従事者であれば、共感する部分も多いだろう。また、日本との細かい違いもたくさん見つかるのではないだろうか。

世界的にも看護師不足は深刻で、WHO によると 2030 年までに世界で 1300 万人が不足するという。舞台となっ

たスイスでは 2030 年までに 3 万人の不足が予測されている。スイスで看護師の就職 4 年以内の離職率は 36% にのぼる。

医療という仕事を家族に理解してもらうのにもおすすりかもしれない。「カリフォルニアから来た娘」は現代では「ボストンからスイスへ電話をかけてくる娘」になるらしい。1 シーンだけ、麻酔科医が出てくる。探してみてください。(編集部)

用語情報

循環器学用語集(第 4 版)において、「心嚢」は、「心膜」に変更されています。

今回の徹底分析シリーズ編集の過程において、『循環器用語「心嚢」の「心膜(腔)」への統一周知ご協力をお願い』という文書が発出されていることを、企画者の先生からお知らせいただきました。

LISA では、麻酔科学用語集とほかの用語集で表記が

一致しない場合は、麻酔科学用語を優先して使用します(アンジオテンシン、急性呼吸促進症候群など)が、麻酔科学用語集(第 5 版)に「心嚢」の用語は掲載されていないため、循環器学用語を採用いたしました。

(編集部)